

国際スポーツ大会招致開催の意義 と最新のトレンド

早稲田大学 スポーツ科学学院 教授
高橋義雄 博士 (スポーツウエルネス学)

結論

国際スポーツ大会開催の意義は
マネジメントしだい

国際スポーツイベントのタイプ

- 総合競技大会

オリンピック、パラリンピック、アジア大会、デフリンピック
スペシャルオリンピック

- 単独競技大会

ワールドカップ、世界陸上、世界水泳・・・

- 国際リーグ／ツアー大会

アジアチャンピオンズリーグ、F1（モータースポーツ）

- 参加型

マスターズ

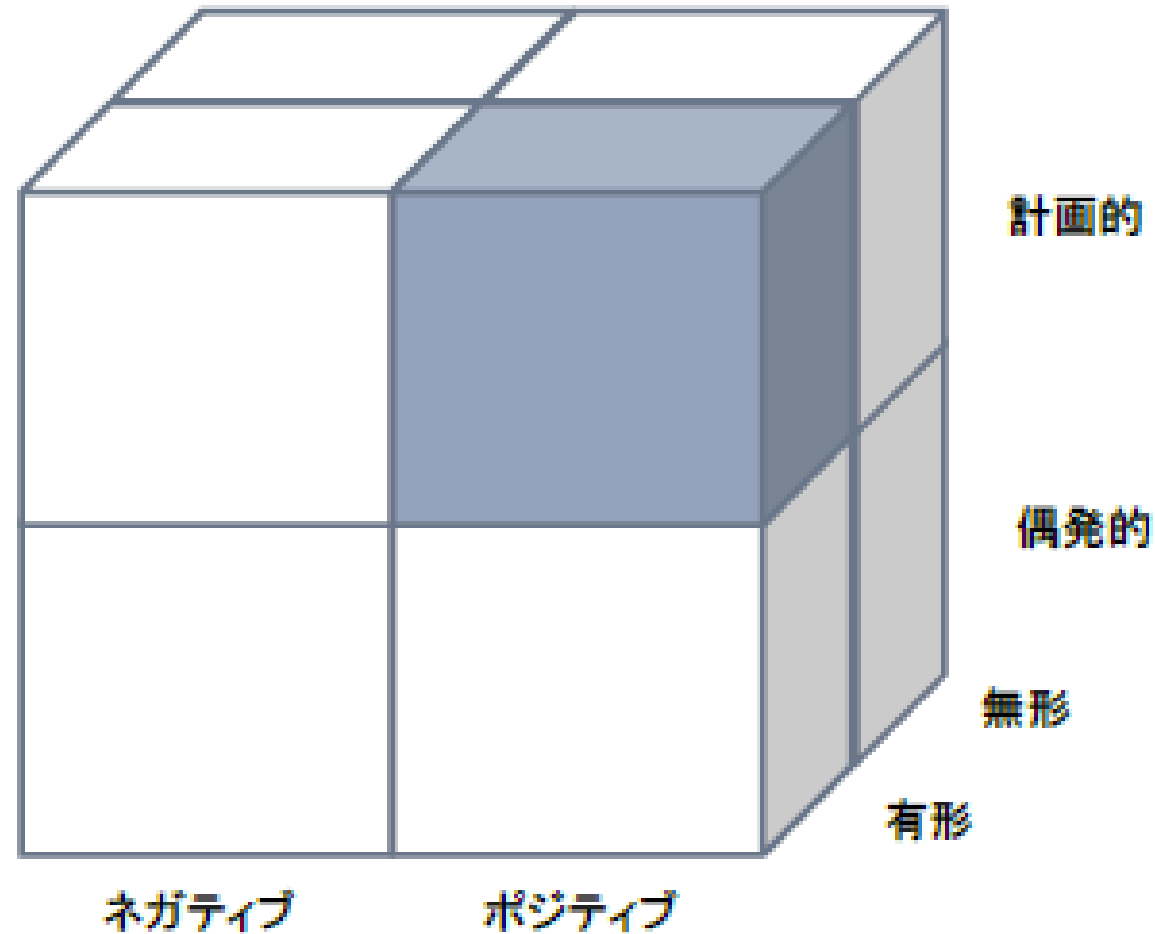
タイプ分けのポイント

- 競技日程・期間 東京オリンピック 17日間
開催招致決定、準備 7年
- 会場数 開催地の施設 コンパクトor複数都市
- 観戦客数 交通システム ホテル
- マーケティング契約 協賛企業
- テレビ中継
- 予算規模

国際スポーツ大会開催のインパクト

- インパクトの仕分け レガシーキューブ
- ポジティブ&ネガティブ
- 作り込みの準備が必要 計画的か偶発的か
- 短期的&長期的
- 費用対効果
- 民間主体&公共主体

オリンピック・レガシー・キューブ



出典：Gratton, C. & Preuss, H.(2008) Maximizing Olympic impacts by building up legacies.

The International Journal of the History of Sport 25(14), 1922-1938 より三菱総合研究所作成

三菱総合研究所：<https://www.mri.co.jp/knowledge/wisdom/legacy/about/index.html>

オリンピック・レガシー (IOC "Olympic Legacy Booklet")

- スポーツ

 - スポーツ・運動実施率、アスリート支援、スポーツ価値向上

- 社会

 - ボランティア、コミュニティ再生、障がい者への意識、国際化

- 環境

 - 環境負荷、新技術の開発・普及

- 都市

 - インフラ整備

- 経済

 - 経済成長

最新のトレンド 持続可能なスポーツイベントへ

- 環境負荷

廃棄物、温室効果ガス、生態系破壊

- 社会課題への対応

SDG's

- 経済リスク

財政負担

IOCの大会開催 に関するトレンド

“Building a better world through sport”

- 2014 IOC「オリンピックアジェンダ 2020」
環境保全, 社会的公平性, 経済的持続性
- 2015 第21回気候変動枠組条約締約国会議 (COP21) 「パリ協定」
- 2015 国連サミット「持続可能な開発目標 (SDGs)」
- 2016 The International Federation (IF) Sustainability Project

IOC FOCUS AREAS



参考文献 : <https://stillmed.olympic.org/media/Document%20Library/OlympicOrg/Factsheets-Reference-Documents/Sustainability/IOC-Sustainability-Strategy-Long-version.pdf>

国際サッカー連盟の取り組み

参考文献：<https://digitalhub.fifa.com/m/a6e93d3f1e33b09/original/FIFA-Climate-Strategy.pdf>

- 2021 国際サッカー連盟（FIFA）の気候戦略

第26回国連気候変動枠組条約グラスゴー締約国会議
(COP26)

2030年までに排出量50%減、2040年カーボンニュートラル
(二酸化炭素ネット排出量ゼロ) に基づくアクションプラン

FIFA大会での気候変動適応と気候変動緩和に関する開催コンセプト、要件、規制等をレビューするとともに、大会や予選運営での二酸化炭素排出量の算出基準も固める。その上で、2022年のFIFAワールドカップから新ルールを導入する。

国際陸上競技連盟（World Athletics）の取り組み

<https://worldathletics.org/athletics-better-world/news/sustainability-strategy-2020?form=MG0AV3>

- 2020年4月に「サステナビリティ戦略2020-2030」を発表
- 中心目標は、2030年までにカーボンニュートラル（二酸化炭素排出量ゼロ）を達成すること
- リーダーシップの確立: サステナビリティのベストプラクティスを推進し、全てのイベントと加盟団体に対して持続可能な行動を促す。
- 持続可能な生産と消費: 本部での再生可能エネルギーの利用を100%にし、廃棄物管理システムを導入する。
- 気候変動とカーボン: 年間10%のカーボン排出量削減を目指し、持続可能な旅行ポリシーを実施する。
- 地域環境と空気の質: アスレチック競技場周辺の低排出ゾーンを設立し、地元経済への影響を最大化する。
- グローバルな平等: すべての地域で男女問わず機会均等を提供し、年次の女性リーダーシップセミナーを開催する

世界トライアスロン連合（World Triathlon）の取り組み

- 戦略的分野の提案：ガバナンス、人員配置、移動手段、廃棄物および水の管理、生物多様性など、多岐にわたるトピックをカバー。
- 2021 「Sustainability Guideline」大会の認証評価制度

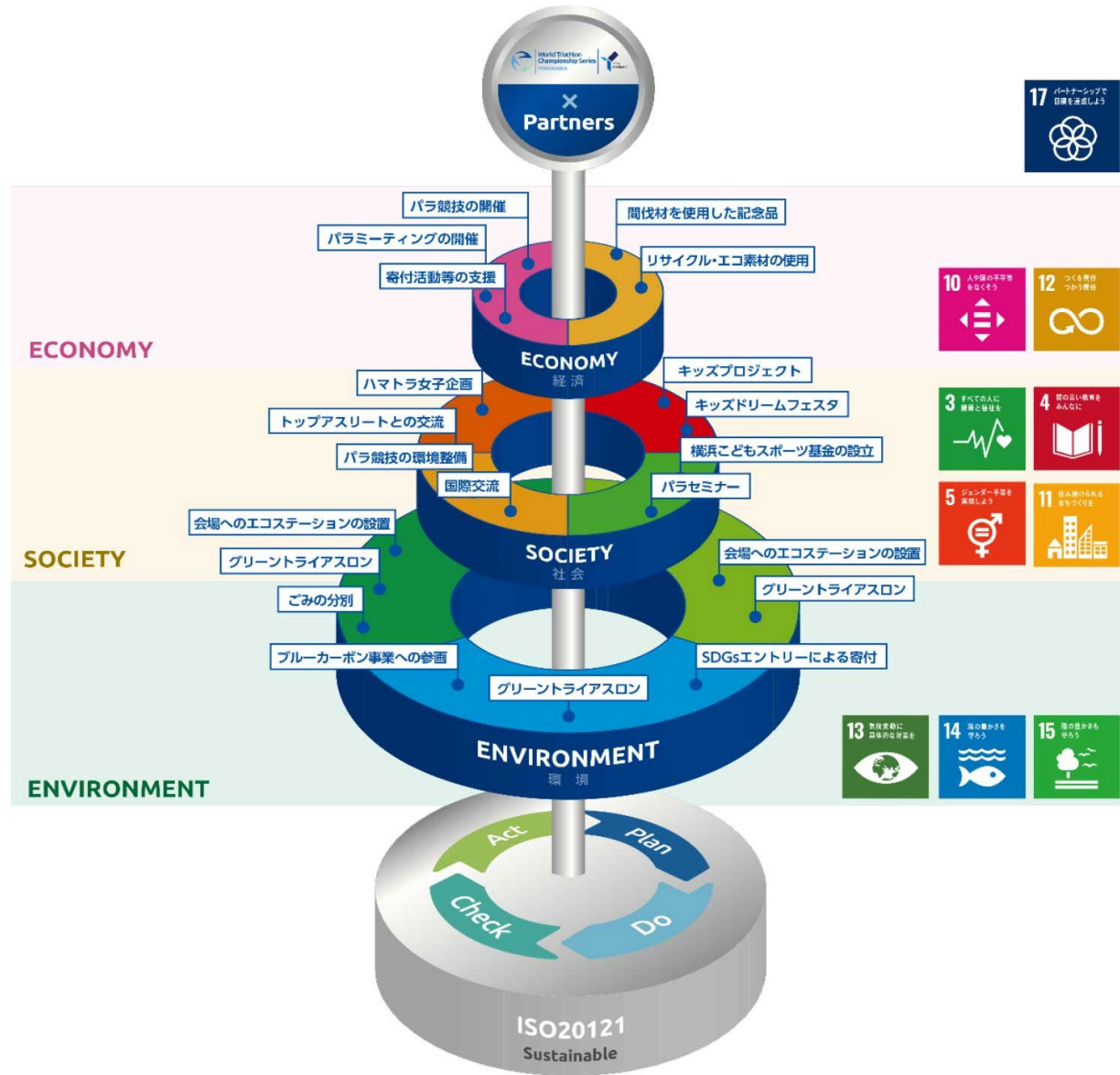


**World Triathlon
Championship Series**
YOKOHAMA
2025

2012 ISO20121認証の継続とSDGsの目標達成
2024 World Triathlonのサステナビリティ認証
「GOLD」



<https://yokohama.triathlon.org/sustainable/iso20121/>



横浜大会におけるSDGsの取組とISO20121によるPDCAサイクル

<https://yokohama.triathlon.org/sustainable/iso20121/>

国際スポーツ大会開催の意義はマネジメントしだい

- 開催の目的を明確化する
- 計画段階から成果のための仕込みが大事
- 成果評価
- 国際競技団体との連携
- 協賛企業との連携
- 行政との連携
- 市民とのコミュニケーション